

美術学部

教養部会教授 橋本 泰幸

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
アーサ・ダウ研究 アメリカにおける教育のジャポニスム	2011. 3. 22	名古屋芸術大学研究紀要第32巻	19世紀後半、アメリカに起こるジャポニスムには芸術だけでなく教育もあり、それがダウによる美術教育であったことを論証した
ものづくり教育発祥の国の今、フィンランドとスウェーデンの現状と課題	2011. 3. 26	美術科教育学会、富山大会	口頭発表（広島大学三根和浪と共同発表）工作教育の始まりとされる国々での現状と課題を明らかにし、わが国の本教育の今後を考察するものである。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等	g その他教育活動上特筆すべき事項
授業科目 教科教育法の研究Ⅰ（美術） <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 工夫の概要 明治以降の初等教育の歴史を核にしての講義だが、各時期に活躍した画家の作品や活動をDVD等で、見せることにより、芸大に学ぶ学生の興味と関心を喚起した。あわせて、学習指導要領や教科書を資料として使うことで、実際の学校教育と関係づけ、本講義内容が現実感あるものにした。	
教材・資料等の概要 美の巨人、日曜美術館など市販DVD。「日本の美術教育」（橋本泰幸著、明治図書）、「ジャポニスムと日米の美術教育」（橋本泰幸著、建白社）、教科書（日文、開隆堂）	
授業科目 教科教育法の研究Ⅱ（美術） <input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 工夫の概要 ここでは美術教科の内容研究として教科書の作成を課題として取り組む。自らの学びの経験に立って、どこまで美術教育をガイドできるかを考えさせたかった。	
授業科目 造形論2（立体） <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 工夫の概要 「学内」を設置場所に造形し、それによる環境の変化を知ることで、造形と環境、生活との関係を考えさせた。具体的な条件での造形思考を勧めた。	
教材・資料等の概要	

授業科目 教科教育の研究 (工芸)		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
生活と結びつく工芸の意味、それを教える意味を、伝統工芸に係わる DVD など視聴覚資料を使い「目」による理解、そして「張り子」技法による制作を通して「手」による理解など、講義だけにならないように取り組む。		

3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
美術科教育学会 理事	1995 ~ 2010. 3 まで	学会運営に参加
日本教科教育学会 副代表理事 教科理事、常任理事	1997 ~ 2011. 3	学会運営に参加